

ちよつといし話

～自然～

今年の星祭り祈願会に於いて善覺上人がお話された中に今年は災害がある、と言われた事を思い出しました。記録づくめの高温が続き台風の上陸も10数回となりました。自然がもたらした猛威は新潟、福井の水害から始まり、その被害は全国に及び、たくさんの尊い生命が奪われました。その上、十月二十三日には新潟で震度6強の地震があり被害甚大です。今年は日本国内広範囲で災害に見舞われ最悪です。私達は毎日の生活に於いて天地の恵に対して感謝する事を忘れかけています。ですから物心両面にわたり思いやる心を忘れる事の無い様にとの神仏の戒と受け止めてもよいかと思います。

人間は古来より自然と闘いながらも共存して来ました。自然とは古代インドにおいても水、火、地、風の四つを四大と称し、この四大が宇宙自然界を構成していると考えた哲学をもっていました。鎌倉期に活躍された浄土宗祖法然上人の法然とは法爾自然を略したのであり、事物が作為を越えて本来自然であることを意味します。無量寿経の中に「清風時に発りて五音の聲を出す微妙の宮商、自然に相和せり」とあります。五音とは今使われている音楽の五音と同じです。宮、商とは五音の中の二つです。これからは台風の風も清風に変わって欲しいものです。そこで一声、オンアボキャ～云々～ハラバリタヤウンと称えれば當れる風も降る雨も、爲に害う事は無し、と大師は申されました。

善壽界 善入院 油掛地藏尊